

(2) 県内で栽培されているその他の品種

早晩性 (注)	品種名	育成者 品種登録年 農林登録年	樹姿	耐寒性	耐病性		刈り倒れ 抵抗性	収量性 (対やぶきた)
					炭疽病	輪斑病		
早生 (7~8)	さえみどり	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 1991年 1990年	中間	赤枯れにやや強 青枯れに中	中	弱	中	同等もしくは多収
やや早生 (4~3)	さえあかり	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 2012年 2011年	やや開張	赤枯れに中 裂傷型凍害にやや強	強	強	弱	多収
やや早生 (2)	さきみどり	宮崎県 2001年 1997年	中間	赤枯れにやや強 裂傷型凍害にやや強	中	やや強	弱	やや多収
中生 (1)	めいりよく	農水省茶試(金谷) 1987年 1986年	中間	赤枯れにやや強 青枯れにやや強 裂傷型凍害にやや弱	やや強	強	弱	多~極多
中生 (41~42)	べにふうき	(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 1995年 1993年	開張	赤枯れに中 青枯れに中	強	強		多収
中晩生 (3)	ごころ	京都府 育成1954年	中間	赤枯れにやや強 青枯れにやや強				中
中晩生 (4~5)	おくゆたか	農水省茶試(金谷) 1983年 1983年	やや開張	赤枯れに強 裂傷型凍害に中	弱	弱		多
参考 (中生)	やぶきた		やや直立	赤枯れにやや強 青枯れに中 裂傷型凍害にやや強	弱	弱	弱	

品質特性	その他の留意点
色沢の評価が高く、明るく冴えた鮮緑色を特徴とする。香気はやぶきたと異なる芳香を有し、滋味は渋味が少なく、うま味がある。	早生品種のため晩霜害を受けやすく、晩霜害後の回復も悪い。水色は普通蒸しの場合、やや赤みを帯びる場合があり、少し深蒸しすることできれいな緑色になる。
一番茶は、水色が明るく、滋味も良好。二番茶についても夏茶臭が少なく、品質良好。さえみどり同様のやぶきたとは異なる芳香（蒸かしたサツマイモ様）を有する。	もち病にはやや弱。クワシロカイガラムシに対する抵抗性はない。（やぶきたと同程度）
色沢は鮮やかな緑。水色は濃緑で澄んでおり、さわやかな香気。滋味は溫和である。	やぶきたに比べクロロフィル含量が多い。葉が大きめであるので、摘採遅れに注意が必要。
外観は大型、扁平になりやすい。やぶきたと同等でやぶきたに似る。香気、滋味に清涼感がある。滋味はやや淡泊（うまみがやや少ない）。摘採遅れによる品質劣化が著しく大きい。	摘採適期を逃すと極端に品質が劣化するので、やぶきたより1日程度は早めに摘採する。新芽が開きにくい。土壌条件に対する適応性が広い。1ばつにやや弱い。
良品質の紅茶及び半発酵茶用品種である。紅茶の品質特性は滋味は濃厚、水色は深紅色、清香を併せ持つ。	暖地では裂傷型凍害が発生しやすい。メチル化カテキンは二、三番茶に多く、紅茶の製造で消失するため、緑茶での製造が必要である。
玉露・てん茶として品質は独特の香味をもち、また、煎茶としても一般に品質が良く、特に香気がすぐれる。	おおい下栽培でも露地栽培でも新芽の茎の硬化が早く、摘採適期の幅がやや短いので、摘み遅れると茎が目立つ。
上品で優雅な香気と、うま味が強く、こくがあり、まろやかな味が特徴。	新芽が硬化しやすいので、適期を過ぎると揉めなくなり、外観が大型になって極端に品質が低下する。新芽の色が濃く、葉肉が厚めなので、深蒸しに適している。

出典：『茶の品種』（社）静岡県茶業会議所）、茶業研究報告（日本茶業技術協会）

野菜茶業研究所が育成した注目の茶品種（野菜茶業研究所茶育種グループ）

品種登録データ（農林水産省 品種登録ホームページ）

注）早晩性の（）内の数字は対やぶきたの摘採日比較（茶品種ハンドブックより）